



## 理事長随想⑦

### 上前津の隠居

堤 修三

坂の上の雲に向かって脇目もふらずにまっすぐ上る男たちより、春風の中を奉公先から実家に向かっていそいそと長い堤を帰っていく娘らが好ましい\*などと思うようになった私は十分に年寄り趣味になったと言うべきか、最近では徳川期の風流や滑稽を書いた本を読むことが多い。今回、取り上げるのは横井也有の俳文集『鶉衣』(岩波文庫)である。和漢の故事を駆使し、雅俗を取り交ぜてさまざまな主題について技巧を凝らした小文が並ぶ。

この本で也有は、徒然草・伊勢物語・平家物語ほか本邦の古典、詩経・莊子・論語など中国の典籍を引用しまくり、多くは身の回りのものごとについて平明洒脱に論じる。例えば、「臍説」では、「そも一物にして多用の省略は、天地開闢よりその沙汰あり。今見よ、鼻は呼吸をかよはし、口は飲食をかねたり。…その中に臍というものゝ、蓬生のかげにかくれて、表のかざりともならず、何の益なき道具にして、久しく不審の晴れざりしが、今此身にして初めて知りぬ、慥かに天地開闢の時、余儀なき方よりの賞物なるべし」と書き、西行が鎌倉で銀の猫をもらったのち、やがて門前の童に連れてやった故事を引いて、將軍に諂う心はなくとも、その場では要らないとも言い難く、取り敢えず受け取ったのだ、臍は此の理ではないかと言う。その一方で「臍頌」と題する文では、臍は物を食べたり、言ったりはしないが、これは男の乳も同じで、今更これらを取り払えば、腹は混沌王の顔(のっぺらぼう)のようになって、世のなか味気ないものになると臍に味方し、臍にすえる灸の効果や臍の垢の力を称え、臍をかむ・臍が笑う・臍がね(へそくり)・雷に臍を抜かれるといった言い回し・俚諺もあると付け加える。さらに芭蕉に「旧里や臍の緒に泣くとしの暮」の句があることまで持ち出し、耳や鼻は臍のように袖を濡れさせることはできないと持ち上げている。最後は「友とせむ臍物いはば秋の暮」という自作の句まで掲げる念の入れようだ。言葉遊びのようでもあるが、脳みそを柔らかくする助けにはなるかもしれない。

『鶉衣』は也有が務めを退いて隠居した後、書かれたものが多いだけに、以上のようなもののほか、「閑居記」・「物忘翁伝」・「歎老辞」・「隠居弁」・「六十齡説」など老境の思いを軽妙に綴った佳品も多い。「断酒弁」も私には有益であった。

さて、横井也有とは何者か。彼は江戸中期(1702年～1783年・元禄15年～天明3年)の俳人。本名は横井時般、尾張藩で側用人・大番頭・寺社奉行などを務めた後、1754年(宝暦4年)致仕。彼の隠居所・知雨亭は前津(現在の名古屋市中区上前津)にあったという。「グレイスフル上前津」の辺りかしらん。也有は、俳諧を美濃派の武藤巴雀・太田巴静に師事、江戸の著名な文化人とも交流があり、前編の序は四方山人(太田蜀山人・南畝)が書いている。こんな名古屋の有名な文化人だから、名古屋市立の学校では郷土の偉人として教えられているのではないか。私とは言えば、むかし高校の定期試験で『鶉衣』の著者を書けという問題が出て、『鶉衣』という作品すら知らず、何じゃ、これかと思った記憶がある。学年で唯一正解した友人がおり、彼は文学史研究者ではなく、高名な経済学者になった。

\*前半は言うまでもなく司馬遼太郎が書いた明治、後半は与謝蕪村の「春風馬堤曲」が描く安永(1777)。

「馬堤」というのは蕪村の故地・毛馬堤のことである。

# 夏休みの子ども食堂

子どもたちが夏休みの期間中、子ども食堂では様々なイベントを開催しました。

\*7月30日：「英語であそぼう」

FC 江南の南施設長と江南エリアのEPA 職員（エミルさん、セシルさん、コンさん）が、英語のクイズや歌で子どもたちを楽しませてくれました！

\*8月 7日：「作って遊ぼう」（協力：名城大学ボランティア協議会）

\*8月21日：「おやつ（ホットケーキ）を作って、デコレーションしよう」（協力：名城大学ボランティア協議会）

♪子どもたちのキラッキラの笑顔を見ることができました♪



クイズに挑戦！英語や外国に関することなど、子ども達の勉強になりました。



大学生のボランティアと物作りに挑戦！お気に入りの作品と記念撮影♪



大学生のボランティアとホットケーキを作ってデコレーション！  
オリジナルのデコレーションをして楽しみました。